

就職活動ガイド

就職活動の各ステップ

準備

自己分析



ひとりで机の上で考えるより、人と話しながら気づきを得ていくほうが有効。

業界企業研究



広く浅くではなく、大学院の研究と同様に自分の興味関心に引きつけて調べる。

インターンシップ



2023年4月より一部プログラムは正式採用につながる。業界企業の様々な知識や経験を得られる。

卒業生訪問



個別に話を聞くことで、業界・企業や、仕事への理解を深める機会になる。

選考

説明会

業界や企業を絞りすぎずに見て回り、自分の就職先を選ぶ基準を明確にする。興味のある業界以外にも参加して、新たな興味を発見する。

エントリー

学業との兼ね合いで大量にエントリーするのは難しく、特定の業界や公務員に絞る院生もいるが、絞りすぎた場合のリスクも考慮する。

Webテスト

慣れることも重要なので、対策本で練習しておく。志望度の高い企業で早めに実践練習をした先輩が多い。

面接

早い時期に面接をおこなう企業を受け、経験しながら、実践的なコツをつかんでおくとよい。

グループディスカッション

重要なのは、発言量や目立つことではない。チームプレイや課題解決の力が評価されることに留意する。

大学院生の就職活動のポイント

1

進路選択

「進学か就職か」を迷っている人は、博士課程の先輩や修士課程修了後に就職した先輩などに話を聞き、自分の考えを整理してみてください。インターンシップに参加することで、就職への興味を確認することもできるでしょう。

2

論理的思考力のPR

「論理的思考力が強み」と直接PRするよりも、応募書類の文章や面接での応答で実際に示すほうが説得力があります。なお、「志望動機は3点あります。1点目は…」と述べる学生が多いですが、複数の点を挙げるのではなく、**1点に絞って深く伝える**と論理性が伝わります。

3

志望動機

「自分が成長できる」「やりがいを感じられる」といった「自分本位」とも受け取られる志望動機には要注意。「**御社の一員となって貢献したい／できる理由**」を伝えるようにしましょう。大学院生期間での学びや経験が、どのように企業で活かせるのかを整理しておきましょう。

4

自己PR

体験談は、学部時代のもの大学院進学後のものとお組み合わせましょう。学業に関する経験談は、「自分ひとりでがんばった」という内容ではなく、まわりの人（教員や先輩・友人など）の**協力やアドバイスを得た**というプロセスを含めるようにしましょう。

5

研究との両立

「両立が難しい」という先輩は多いです。それほど容易ではないのですが、自分に合ったやり方やペースを見つけ、メリハリをつけて取り組んでください。就職活動のピーク時期にも研究のための時間をつくることで気分転換になった、という先輩もいます。

学業と就活の相乗効果を意識しよう

就職活動と大学院での学業は別々のものとは考えず、双方の進め方に共通性があることに注目してください。**相乗効果を高めて、それぞれ納得のいく結果につなげましょう。**相乗効果を生み出すポイントの一例です。ぜひ参考にしてください。

大学院での取り組み

就職活動

研究テーマや問題意識



志望先選びや志望動機を練ることに活かせる

大学院でのハードかつ主体的な取り組み



自己PRとして語る

情報収集・課題分析



業界研究・企業研究をする際に活かせる

論理的なレジュメ作成や発表



エントリーシート作成や面接の場で活かせる

ゼミや授業での議論



グループディスカッションの選考に活かせる

否定的批判ではなく建設的な意見を述べる



企業への課題提起を求められた先に活かせる

院進学のための最大の目的や
研究テーマの明確化につながる



第三者に院進学理由や
研究テーマをわかりやすく説明する